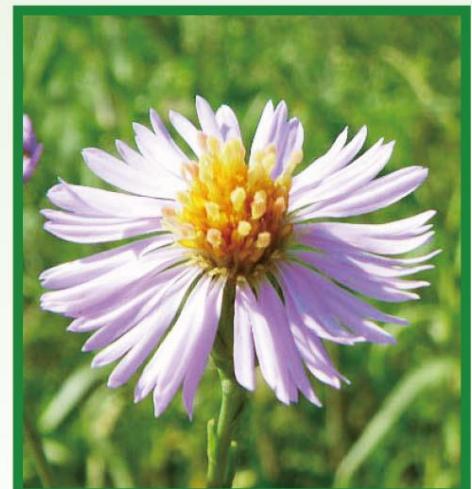
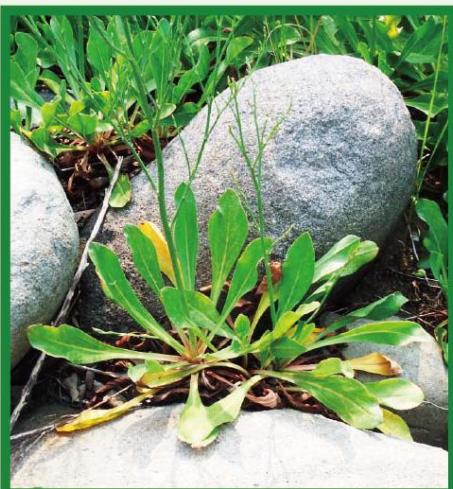




九州でみられる  
塩沼地植物  
ガイドブック



# はじめに

『青菜に塩』ということわざがあります。これは、直前まで元気だったものが、急に勢いをなくしたり、しょげたりする様子を表します。

このことわざにあるとおり、通常、植物に塩をかけると、浸透圧で体内の水分が外へ移動してしまうため、植物はすぐにしおれてしまいます。

では、本ガイドブックで紹介する塩沼地植物はどうなるでしょうか。ハママツナは体内に塩化ナトリウムを取り込むことで、浸透圧調整を図ることができます。ヨシの場合は、光合成で生成した糖を根に集めることで、浸透圧を調整することができます。このように塩沼地植物は「塩」の耐性をもった植物です。

そんな変わった植物である塩沼地植物も、意識しなければただの雑草に過ぎません。本ガイドブックでは、本来、植物が嫌う環境に生える彼らにスポットを当て、植物に興味がない人にも興味をもってもらえるように植物を紹介しています。

## 目次

|                    |                               |
|--------------------|-------------------------------|
| ■塩沼地・汀線とは ······ 1 | ナガミノオニシバ ······ 10            |
| ■塩沼地の現状 ······ 2   | アイアシ ······ 11                |
| ■掲載種の一覧 ······ 3   | ヨシ ······ 12                  |
| ■用語の説明 ······ 5    | ハマサジ ······ 13                |
| ■本書の使い方 ······ 6   | フクド ······ 14                 |
| ■塩沼地植物の紹介          | ウラギク ······ 15                |
| ●樹木                | ハママツナ ······ 16               |
| ハマボウ ······ 7      | シチメンソウ ······ 17              |
| ●草本                | ヒロハマツナ ······ 18              |
| シバナ ······ 8       | ■汀線植物                         |
| シオクグ ······ 9      | ●草本                           |
|                    | ホソバハマアカザ ······ 19            |
|                    | ホコガタアカザ ······ 20             |
|                    | アキノミチヤナギ ······ 21            |
|                    | ■塩沼地・汀線以外の<br>海辺の植物 ······ 22 |

九州でみられる  
塩沼地植物  
ガイドブック



# 塩沼地・汀線とは

## ■塩沼地とは

川から流れて来た土砂が、河口にたまり、砂州と呼ばれる細長い地形や小島をつくります。そこに海から海水が入ることで、砂州や小島は周辺より塩分濃度が高い湿地になります。これを、塩沼地と呼びます。塩分が高いと、植物が生えづらいため、塩沼地には塩分に耐える性質をもついくつかの植物のみが生育しています。

## ■汀線とは

本書における汀線とは、大潮満潮の高さのことをさします。ここには海から漂着したゴミや有機物がたくさんあるため、富栄養な場所となっています。汀線には、富栄養な場所を好み、塩分に耐える性質をもつ植物が生育しています。



和白干潟（福岡市東区）。ヨシやシオクグ、ハママツナの群落がみられる。



今津干潟（福岡市西区）。ヨシ、ナガミノオニシバ、フクドなどの群落がみられる。

# 塩沼地の現状

現在、国※1や県※2、3が絶滅の危機にある生き物を選定しています。塩沼地や干潟の生物も、海岸や河川の改修・開発、埋め立ての影響で、分布範囲や個体数が減少しており、塩沼地植物を含め、多くの種が絶滅の危機にある種として、レッドデータブックやレッドリストに掲載されています。

## 塩沼地や干潟でみられる希少な生き物

### オオヨシキリ（巣）



ヨシ原の中に巣をつくり、繁殖する。ヨシ原の減少とともに個体数が減少している。

県※2：準絶滅危惧

### ハクセンシオマネキ



砂質の干潟に生息。埋め立てや護岸工事の影響で個体数が減少している。

国※1：絶滅危惧Ⅱ類

県※3：準絶滅危惧

本書では、塩沼地植物がどれほど減少し、数が少なくなっているかを知ってもらうために、下記に示すように、各種の指定状況を記載しています。

### ●植物群落のカテゴリー※2

| カテゴリー    | 選定基準    | 本書での表示 |
|----------|---------|--------|
| カテゴリーI   | 緊急に対策必要 | 群I     |
| カテゴリーII  | 対策必要    | 群II    |
| カテゴリーIII | 破壊の危惧   | 群III   |
| カテゴリーIV  | 要注意     | 群IV    |

### ●植物のカテゴリー※1、2

| カテゴリー | 選定基準             | 本書での表示        |     |
|-------|------------------|---------------|-----|
|       |                  | 福岡県           | 環境省 |
| 絶滅危惧  | I A類<br>絶滅危惧 I 類 | 絶滅の危機に瀕している種  | 環IA |
|       | I B類             |               | 環IB |
|       | 絶滅危惧 II 類        | 絶滅の危機が増大している種 | 環II |
| 準絶滅危惧 | 将来的に絶滅危惧種となりうる種  | 福準            | 環準  |

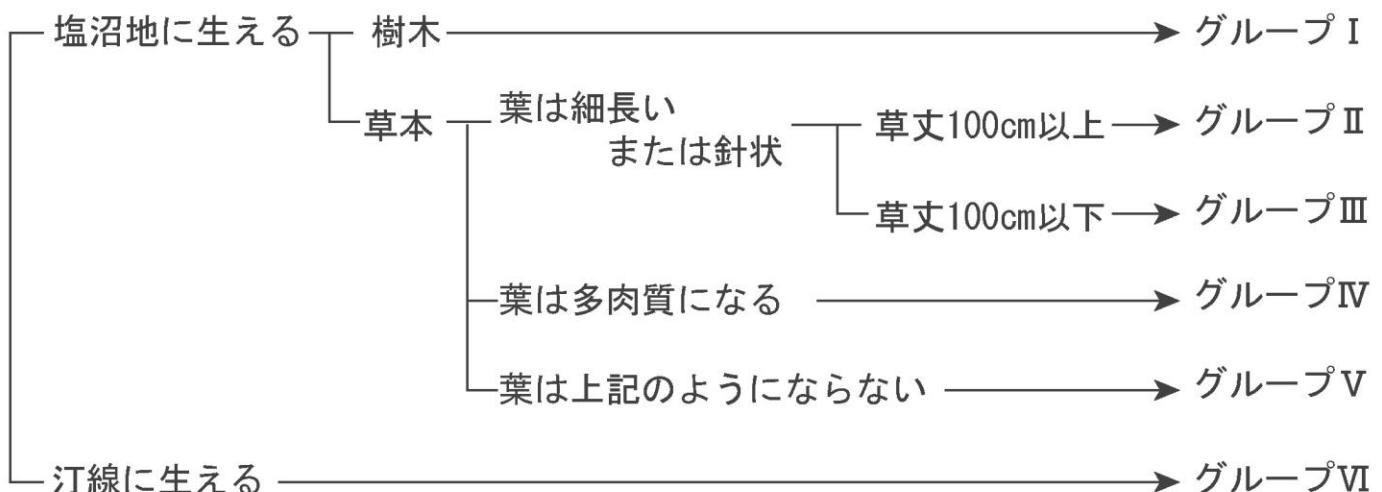
※1：環境省レッドリスト（植物 I）維管束植物2012に準拠

※2：福岡県レッドデータブック2011 福岡県の希少野生生物に準拠

※3：福岡県レッドデータブック2001 福岡県の希少野生生物に準拠

# 掲載種の一覧

## グループ検索表



### グループ I

ハマボウ

p. 7



### グループ II

アイアシ

p. 11



ヨシ

p. 12



### グループ III

シバナ

p. 8



シオクグ

p. 9



ナガミノオニシバ p. 10



### グループIV

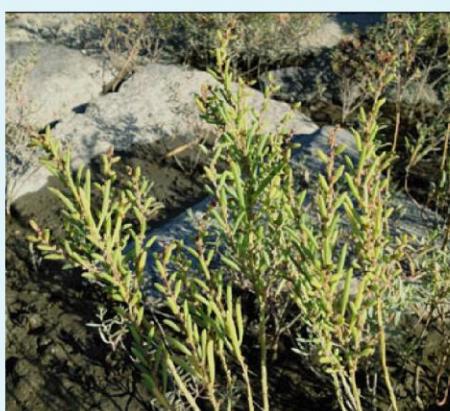
ハママツナ

p. 16



シチメンソウ

p. 17



ヒロハマツナ

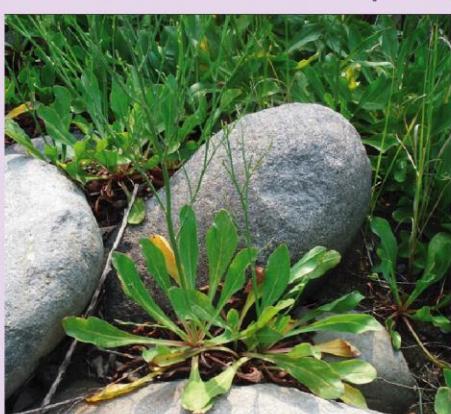
p. 18



### グループV

ハマサジ

p. 13



フクド

p. 14



ウラギク

p. 15



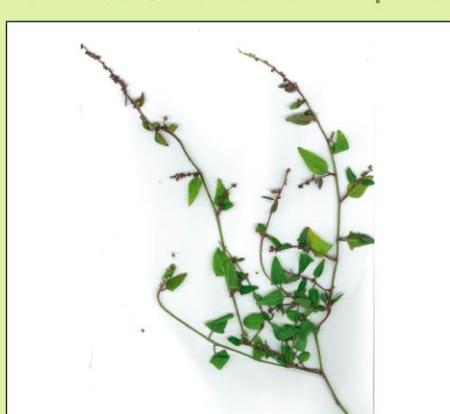
### グループVI

ホソバハマアカザ p. 19

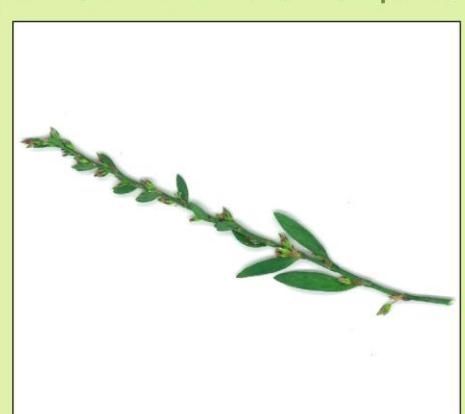


ホコガタアカザ

p. 20



アキノミチヤナギ p. 21



# 用語の説明

## ●生活史

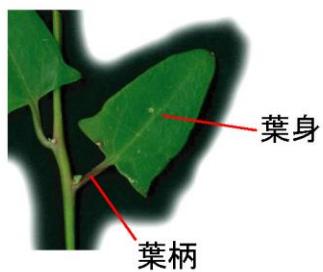
- ・ **1年草**：寿命が1年しかない草。
- ・ **2年草**：寿命が2～3年ある草。1度、開花・結実すると枯れるため、1回繁殖型の多年草ともいえる。
- ・ **多年草**：寿命が3年以上ある草。

## ●茎

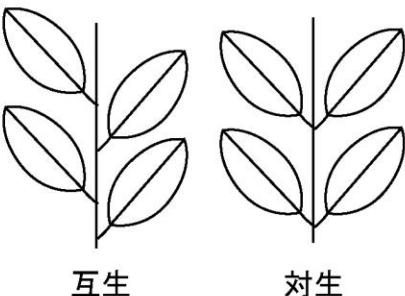
- ・ **地下茎**：地下で伸びる茎。先が伸びて、地上茎となる。
- ・ **匐枝**：地表をほふくする茎。節から根や葉を出す。

## ●葉

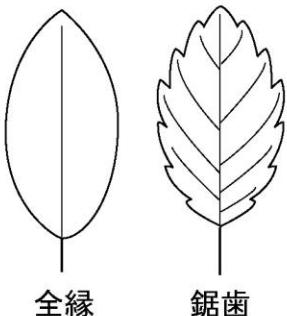
### 葉の各部



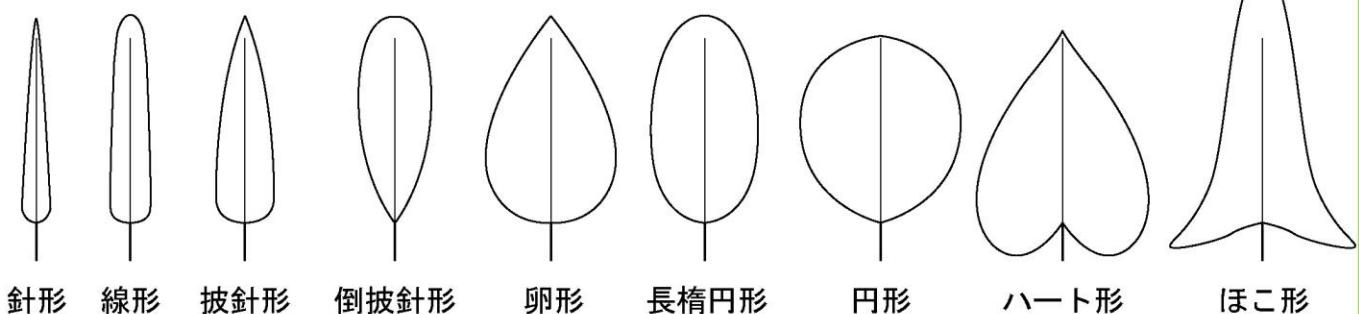
### 葉のつき方



### 葉のふちの形



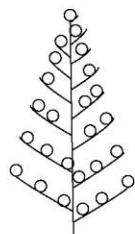
### 葉の全体の形



## ●花

**花序**：花は一定の配列で茎についている。そのつき方、あるいはついている茎全体を花序という。

### 花序の種類



円錐花序



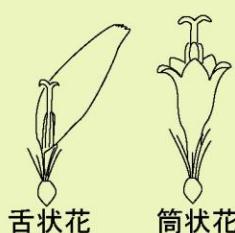
穂状花序



頭状花序  
(頭花)

### キク科の頭花

キク科は、舌状花と筒状花から、頭花が構成される。



### 小穂

イネ科や、カヤツリグサ科等の植物は、目立った花をつけずに、花序には小穂という構造体をつける。



ヨシの小穂

# 本書の使い方

本書は、海辺に生育する植物のうち、塩沼地・汀線にみられる種に着目し、福岡県をはじめ九州地方でみることができる種のほぼ全てである15種を掲載しています。

野外での観察時に役立つように、識別 の方法や、似た種との区別点の情報もあるため、観察する際に確認してください。

種の識別 の方法以外にも、かたちの特徴や生育環境の特徴、開花・結実期も記載しているので、観察以外の目的でも使用することができます。

本書は、塩沼地の植物の入門書であるため、不十分な点も多々あります。詳細な情報が知りたい場合は、専門書や図鑑等で調べてください。

## 和名・科名・学名

塩沼地植物 樹木

草本

汀線植物 草本

和名・学名は平凡社

「日本の野生植物」  
に準拠した。

## 生活史

花期・結実期を掲載。

## 解説. 1

### かたちの特徴

草丈や、葉の大きさ  
・形状、花の色など  
の形態的特徴を記載。

### 生える場所

生育する場所や、土質などのほか、国内  
での分布状況。

### 名前の由来

和名の由来や別名、  
学名の由来などを  
紹介。

## 解説. 2

### よく似た植物

類似する種と比較して区別する際に必要な情報を掲載。

## 生活型

:樹木 ②: 2年草

:多年草 ①: 1年草

## レッドデータ・外来種の情報

レッドデータ情報は、福岡県RDB（2011）、  
環境省レッドリスト（2012）のカテゴリー  
に準拠した。

## アイアシ

イネ科

*Phacelurus Latifolia*

群Ⅱ



### かたちの特徴

- 高さ: 80~180cm。
- 葉のつき方  
節がまばらにあり、それぞれに葉  
がつく。
- 葉の大きさ  
長さ20~40cm、幅1~3.5cm。
- 葉の形  
細長く、ヨシよりも硬い。葉の縁は  
ざらつかない。
- 茎・花  
地下に太い茎を長く伸ばす。茎は  
中が詰まっている。茎の先に小さな  
花の集合体(小穂)を5~10本出す。

### 生える場所

- 環境  
海岸や河口の塩沼地に生える。  
塩には弱いため淡水が混じる  
ような所に生える。
- 分布  
北海道~九州に分布。

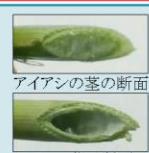
### 名前の由来

- アイアシ(間葦)  
アシ(ヨシ)に似るが、違うものと  
いう意味。アシモドキ。

### ●よく似た植物

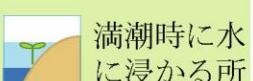
①ヨシ

塩沼地だけでなく、湖沼や川にも生える。葉の形状は  
似るが、穂の形が異なり、茎の断面が空洞となる。



## 生育位置

生育場所を表示



満潮時に水  
に浸かる所



満潮の時  
の水位と同  
じ高さ

## 生態写真

植物全体や、生育  
時の様子、葉の形  
などが解るよう  
な写真を掲載。

## 識別写真

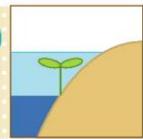
種の識別の際に、  
決め手となる写真  
を掲載。

# ハマボウ

アオイ科 木

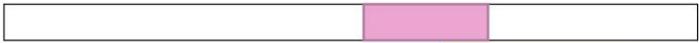
*Hibiscus hamabo*

群Ⅱ 福Ⅱ



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

花期



結実期



①枝の先に黄色の花をつける。②葉のつき方は互生。  
③④葉の形はハート形で鋸歯がある。落葉樹であり、  
秋～冬には葉を落とす。⑤ハマボウの果実。秋に熟す。

## かたちの特徴

- 高さ: 1~3m
- 葉のつき方: 互生
- 葉の大きさ
  - 葉身: 長さ4~7cm、幅3~6cm。
  - 葉柄: 長さ1~3cm。
- 葉の形
  - 円形かハート形で、少し厚い。  
縁にはわずかに鋸歯がある。
- 花
  - 黄色で中心部は暗赤色。  
直径5~10cmの大きな花。  
ハイビスカスと同じ仲間で、朝  
に開いて、夕方にしほむ。

## 生える場所

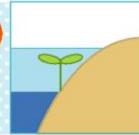
- 環境
  - 海岸や河口の砂泥地の汀線付近  
または汀線より低い場所に生える。
- 分布
  - 本州(神奈川県以西)四国、九州  
に分布。

## 名前の由来

- ハマボウ(浜朴)
  - 浜に生える朴(ホオノキ)のこと。  
ホオノキと花が似ていることから。
- 別名: 浜椿・海椿
  - 椿(ツバキ)のような花で、海辺に  
咲くことから呼ばれる

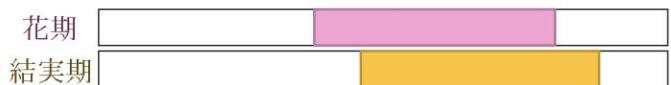
## ●よく似た植物

九州本土には、本種に似た樹木はない。



①シバナの株。長い時間海水につかる場所にも生える。  
②葉は根元からまとまって生える。③葉の間から、花をつけるための茎を伸ばし、淡緑色の多数の花を房状につける。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



## かたちの特徴

- 高さ: 10~50cm。
- 葉のつき方  
根元からまとまって生える。
- 葉の大きさ  
長さ10~40cm、幅1.5~5mm。
- 葉の形  
線形で柔い。断面は半円形。
- 花  
葉の間から、高さ15~50cmの花をつける茎を伸ばし、その先に小さな緑色の花をたくさんつける。

## 生える場所

- 環境  
海水の入る河口付近の浅い川底や塩沼地に生える。  
塩沼地植物の中でも塩分に強く、長時間海水につかる場所にも生える。
- 分布  
北海道~九州に分布。

## 名前の由来

- シバナ(塩場菜)  
塩水が入ってくる場所に生えることから名づけられた。
- 学名: *palustre*(沼地)  
塩沼地に生えることから。

## ●よく似た植物

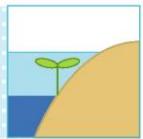
### ①ホソバノシバナ

北海道と本州の寒冷地に生育する。淡水性の湿生植物であるため塩沼地では生育できない。

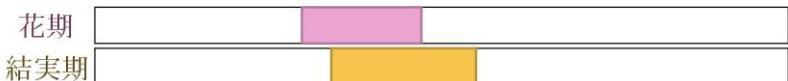
# シオクグ

カヤツリグサ科 多  
*Carex scabrifolia*

群Ⅲ



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



結実期

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|    |    |    |    |    | ■  | ■  | ■  | ■  | ■   | ■   | ■   |



①細長い線形の葉を出す。②河口の泥質な土壤の上にまとまって生えることが多い。  
③雄の花が集まつた穂(雄小穂)。④⑤雌の花が集まつた穂(雌小穂)。

## かたちの特徴

- 高さ:30~60cm。
- 葉のつき方  
根元からまとまって生える。
- 葉の大きさ  
長さ30~70cm、幅7~10mm。
- 葉の形  
細い線形で、濃い緑色。  
さわるとやや硬い。
- 茎・花  
地下に茎を伸ばして群生。  
初夏に細長い花茎を出し、茎頂  
に雄花と雌花の集まつた穂を、  
別々につける。

## 生える場所

- 環境  
海岸や河口の泥質な塩沼地に生  
える。ヨシ群落の前面に帶状に群  
生することが多い。  
塩沼地に、細長い葉の植物があ  
れば、シオクグである可能性が高い。
- 分布:日本全土に分布。

## 名前の由来

- シオクグ(塩クグ)  
塩水が入る場所に生えることから。  
クグは、カヤツリグサ科の古い名称。

## ●よく似た植物

### ①コウボウシバ

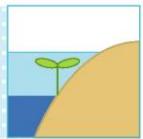
海岸の砂地に生える多年草。草丈10~20cmでシオクグより低いが、  
シオクグが砂地に生えた場合、草丈が低くなる傾向があり、混同  
しやすい。小穂の形状が異なるため、区別できる。

# ナガミノオニシバ

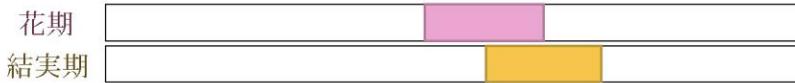
イネ科 多

Zoysia sinica

群Ⅱ



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



①礫浜に生える。  
②満潮時に水につかる位置に低い草丈で、緑色のカーペットの様にまとまって生える種は本種以外はない。  
③葉先はとがる。

## かたちの特徴

- 高さ: 10~20cm。
- 葉のつき方: 2列につく。
- 葉の大きさ  
長さ3~8mm、幅1~3mm。
- 葉の形  
平らか、内側に巻き、先は硬くなり針のようになるが、さわっても痛くない。
- 花  
茎の先に目立たない小さな花を多数、穂のようにつける。

## 生える場所

- 環境  
海岸や河口の岩場や砂礫地などの満潮時には海水につかるような場所にまとまって生える。
- 分布  
本州(関東以西)、四国、九州に分布。

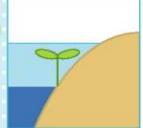
## 名前の由来

- ナガミノオニシバ(長実鬼芝)  
オニシバに似て、見た目がシバより強くオニシバより小穂(花の集合体)が細長いことから名づけられた。

## ●よく似た植物

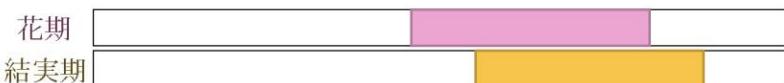
### ①オニシバ

草丈10~15cm。ナガミノオニシバとは生育する環境が異なり、乾いた砂浜の、汀線より高い位置に生育する。葉先はとがり、触ると痛い。



①葉の見た目がヨシと似るが、穂の形が違う。  
②アイアシの穂  
③秋になると緑色を帯びた黄褐色となる。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



## かたちの特徴

- 高さ: 80~180cm。
- 葉のつき方  
節がまばらにあり、それぞれに葉がつく。
- 葉の大きさ  
長さ20~40cm、幅1~3.5cm。
- 葉の形  
細長く、ヨシよりも硬い。葉の縁はざらつかない。
- 茎・花  
地下に太い茎を長く伸ばす。茎は中が詰まっている。茎の先に小さな花の集合体(小穂)を5~10本出す。

## 生える場所

- 環境  
海岸や河口の塩沼地に生える。塩には弱いため淡水が混じるような所に生える。
- 分布  
北海道~九州に分布。

## 名前の由来

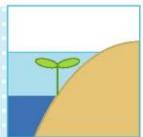
- アイアシ(間葦)  
アシ(ヨシ)に似るが、違うものという意味。アシモドキ。

## ●よく似た植物

### ①ヨシ

塩沼地だけでなく、湖沼や川にも生える。葉の形状は似るが、穂の形が異なり、茎の断面が空洞となる。





1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

花期



結実期



②



③

①②水辺に生え、草丈が高く大きな群落をつくる植物があれば、ヨシである可能性が高い。  
③成熟したヨシの小花は、褐色で白い綿毛が目立つ。

## かたちの特徴

- 高さ: 100~300cm。
- 葉のつき方  
節がまばらにあり、各節に葉がつく。
- 葉の大きさ  
長さ20~50cm、幅2~4cm
- 葉の形: 細長く、途中から垂れる。
- 茎  
地下に太い茎を張り巡らして、大きな群落をつくる。茎は硬く、中は空洞。
- 花  
花は茎の先に穂のようにまとまってつき  
長さ15~40cmの大型の円錐状になる。

## 生える場所

### ■ 環境

池や沼、川などの水辺に群生。  
塩沼地では、草丈が低くなる。

### ■ 分布: 日本全土に分布。

## 名前の由来

### ■ 別名: アシ(諸説あり)

- ・桿(はし)が変化したもの。桿は竿状の棒のようなもののこと。
- ・青し(あおし)が変化したもの。

### ■ ヨシ

「アシ」は「惡し」と聞こえ、縁起が悪いため「良し」となった。

## ● よく似た種

### ①ツルヨシ

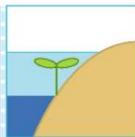
ヨシより小型で、川の中の砂礫地に群生する。  
地表をはう長い匐枝を出す点がヨシと異なる。

### ②ヒトモトスキ

海岸に近い湿地に生える。葉が非常に細く、  
小穂の形状がヨシとは異なるため区別できる。



ヒトモトスキの小穂



④

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

花期

結実期



③

①②根元にさじ状の葉がまとまってつき、秋になると中央部から花をつける茎が伸び、黄色の花を咲かせる。③④花。完全な花1個と、不完全な花1個が、2個の苞に包まれる。

## かたちの特徴

- 高さ: 30~60cm。
- 葉のつき方  
根元にまとまってつく。
- 葉の大きさ  
長さ8~18cm、幅1.5~3cm。
- 葉の形  
サジに似た形。
- 花  
秋に、葉の中から花をつける茎を伸ばす。花茎はよく分岐して、小さな黄色い花をたくさんつける。

## 生える場所

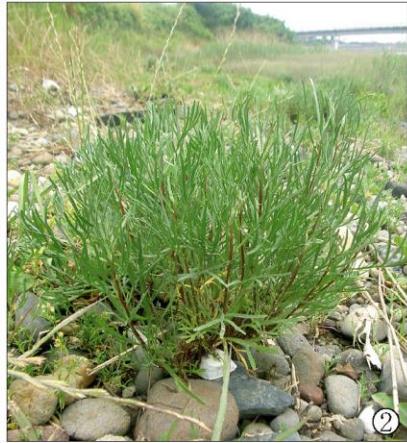
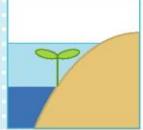
- 環境  
海岸の満潮時には水に浸かる場所に生える。泥にはあまり生えず、礫が混じる環境や砂質、砂泥質の環境に多い。
- 分布  
本州(宮城県以西の太平洋側)、四国、九州に分布。

## 名前の由来

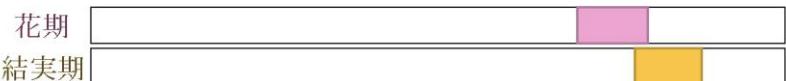
- ハマサジ(浜匙)  
海辺に生え、葉の形が匙(さじ)に似ていることから名づけられた。

## ● よく似た植物

九州に生育する植物で、本種に似たものはない。



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



- ①フクド。全体に強いメロンの香りがある。
- ②③フクドの根生葉。葉柄を含めて、15～20cm程度。開花すると枯れる。
- ④花。鐘形の頭花を、円錐状につける。頭花は中部に両性花が集まり外側に1列の雌性花がある。

## かたちの特徴

- 高さ: 30～90cm。
- 葉のつき方  
株の根元にまとまってつく
- 葉の大きさ: 長さ15～20cm。
- 葉の形  
葉はやや肉厚で、1～2回羽状に裂け、裂片は細く、幅約2mmで先は丸い。  
全体に白緑色で茎の上部の葉は小さくなる。
- 花  
小さな花がまとまってつき、黄褐色で径3～5mmの鐘形で、円錐状につく。

## 生える場所

- 環境  
河口の泥地にまとまって生える。  
満潮時には水につかるような場所に生える。

- 分布  
本州(近畿地方以西)、四国、九州に分布。

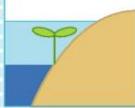
## 名前の由来

- フクド: 語源は不明。
- 別名: 浜蓬(ハマヨモギ)  
ヨモギのような葉で、浜に生えることから呼ばれる。
- 学名: *capillaris*(毛細血管)  
葉の形状から名づけられた。

## ●よく似た植物

### ①ヨモギ

山野で普通にみられる多年草。河口近くでもみられるが、フクドのように塩水に浸かるような場所には生えない。



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

花期



結実期



②



③



④

①②夏～秋にかけて紫と黄色の小さな花が集まった頭花をつける。  
③冠毛は花の終わり頃に伸び、結実期には、1.5cmくらいになる。  
④葉は互生し、わずかに茎を抱く。

## かたちの特徴

- 高さ: 50cm～100cm。
- 葉のつき方: 互生
- 葉の大きさ  
長さ6～10cm、幅1～2cm。
- 葉の形  
細長く、披針形で肉厚。表面はやや光沢がある。葉の付け根はわずかに茎を抱く。
- 花  
茎の上方で、枝を分け多数の頭花をつける。頭花の周りには紫色を帯びた舌状花があり、中心には黄色の筒状花がある。

## 生える場所

- 環境  
沿海地の湿地や塩沼地に生える。砂泥質～礫質までの明るい場所に広くみられる。
- 分布  
本州(関東以西の太平洋側)、四国九州に分布。

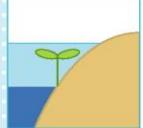
## 名前の由来

- ウラギク(浦菊)  
海岸付近に生える菊という意味。

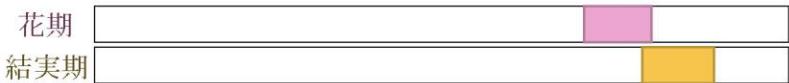
## ●よく似た植物

### ①ヒロハホウキギク

荒地に生育し、沿海地でもみられる外来種。葉の形状がウラギクと似るが、厚みはなく、花が小さいことで区別ができる。



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



①ハママツナ。体内に塩分を取り込み、浸透圧の調整を行うため、多肉質になる。②秋には赤く色づく。  
③葉先はとがる。④種子は、硬実種子(右)と軟実種子(左)の2種類ある。

## かたちの特徴

- 高さ: 20~60cm。
- 葉のつき方: 互生
- 葉の大きさ  
長さ2~4cm、幅1~2mm。
- 葉の形  
細長く線形で多肉質。先はややとがる。断面は丸みのある三角形。秋には赤く色づく。
- 花  
秋に目立たない花をつける。
- 種子  
種子はレンズ形で硬い種子と、円盤形で柔らかい種子の2種類がある。

## 生える場所

- 環境  
暖地の海岸や河口の砂泥地に生える。満潮時には水につかる場所に生える。
- 分布  
本州(宮城県以西)、四国、九州沖縄に分布。

## 名前の由来

- ハママツナ(浜松菜)  
海辺に生え、葉が松の葉のようであることから。

## ●よく似た植物

- ①シチメンソウ: 泥質を好む。葉の断面は丸い。
- ②ヒロハママツナ: 泥質を好む。葉の断面は平たい三角形。



ハママツナの葉の断面

# シチメンソウ

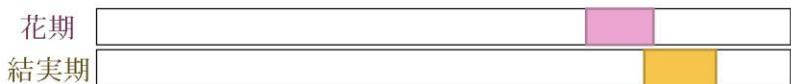
アカザ科 ①

*Suaeda japonica*

福IB 環II



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



①シチメンソウ。泥質の干潟や塩沼地の、満潮時には海水につかるような場所に生える。  
②秋には赤～紫色に色づく。  
その様子からサンゴジュマツナとも呼ばれる。  
③体内に塩分を取り込むことで海水と浸透圧を調整するため、葉は多肉質なこん棒状になる。

## かたちの特徴

- 高さ: 15~50cm。
- 葉のつき方: 互生
- 葉の大きさ  
長さ1~4cm、幅2~4mm。
- 葉の形  
線形で多肉質。ふつうはこん棒状。  
断面は円形。秋には赤く色づく。
- 花  
秋に目立たない花をつける。
- 種子  
種子はレンズ形で硬い種子と、  
円盤形で柔らかい種子の2種類  
がある。

## 生える場所

- 環境  
泥質の干潟や塩沼地に生える。満潮時には水につかる場所に生える。
- 分布: 九州北部に分布。

## 名前の由来

- シチメンソウ(七面草)  
はじめ緑の葉が、赤や紫に変わ  
る様子が、七面鳥の面色が変わ  
る様子に似ていることから。
- 別名: ミルマツナ(海松松菜)  
海藻のミル(海松)に似てい  
ることから呼ばれる。
- サンゴジュマツナ(珊瑚樹松菜)  
葉が赤や紫に変わる様子から、  
呼ばれる。

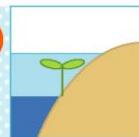


# ヒロハマツナ

アカザ科 1

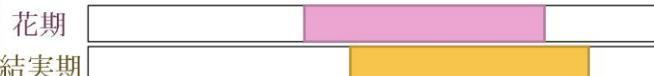
群II 福IB 環II

*Suaeda malacosperma*



①汽水域の泥土上に生え、シチメンソウと似た環境に生える。  
②体内に塩分を取り込むため、葉は多肉質で倒披針形。葉先はややとがる。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



## かたちの特徴

- 高さ: 10~30cm。
- 葉のつき方: 互生
- 葉の大きさ  
長さ1~3cm、幅5~7mm。
- 葉の形  
線形で多肉質。ふつうは倒披針形で先がとがる。断面は平たい三角形。秋には赤く色づく。
- 花  
秋に目立たない花をつける。
- 種子  
種子はレンズ形で硬い種子と、円盤形で柔らかい種子の2種類がある。

## 生える場所

- 環境  
暖地の河口の砂泥地に生える。満潮時には水につかる場所に生える。
- 分布  
本州西部、九州に分布。

## 名前の由来

- ヒロハマツナ(広葉松菜)  
ハママツナと比べて葉が広いことから名づけられた。

## ●よく似た植物

### ①ハママツナ

シチメンソウやハママツナは泥質の土壤を好むが、ハママツナはやや砂の混じった土壤を好む。葉の断面は、ハママツナは丸みのある三角形で、シチメンソウは円形、ヒロハマツナは平らな三角形となる。

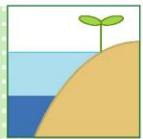


ハママツナ

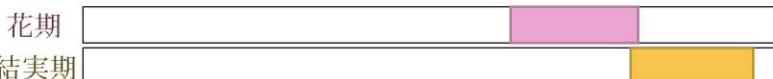
# ホソバハマアカザ

アカザ科 1

*Atriplex gemelini*



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



①汀線上の砂地に生育する。  
②葉は互生する。③葉は細長く、柄があり、やや厚みがある。葉の色はやや白っぽい緑色。  
④ホソバハマアカザの果実。種子は熟しても、果皮と苞に包まれているため、露出せず、外からは見えない。

## かたちの特徴

- 高さ:30~60cm。
- 葉のつき方:互生
- 葉の大きさ  
長さ5~10cm、幅5~15mm

■葉の形  
細く、厚みがある。縁にはわずかに鋸歯が出ることもある。  
葉は粉っぽい白みを帯びた緑色で秋には紅葉する。

■花  
枝の上の方の付け根に数個ずつ集まった花を段々につける。

## 生える場所

- 環境  
海岸の砂地の汀線上に生える。
- 分布  
北海道~九州に分布。

## 名前の由来

■ホソバハマアカザ(細葉浜藜)  
浜に生える細い葉の藜(アカザ)であることから名づけられた。

## ●よく似た種

### ①ホコガタアカザ

生育場所はホソバハマアカザと非常に似ており、汀線上の砂地に生育する。

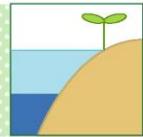
葉が細長くならず、三角形やほこ形となるため、区別ができる。



ホコガタアカザの葉

# ホコガタアカザ

アカザ科 ① 外来種  
*Atriplex prostrata*



①

②

①茎はよく分岐し、葉柄がある。葉は三角状。  
②③ホコガタアカザの葉。変異が大きく、基部が張り出しほこ形になるものや、三角形のもの、丸みを帯びた三角状のもの等、様々な形がある。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

花期

結実期

## かたちの特徴

- 高さ: 20~80cm。
- 葉のつき方  
茎の上部で互生、下部では対生。
- 葉の大きさ: 長さ5~7cm。
- 葉の形  
三角形ほこ形で、柄がある。葉の形には変異が大きく、丸みを帯びた三角形のようになることや、鋸歯がでることもある。
- 花  
数個ずつ集まって穗状に花をつける。

## 生える場所

- 環境  
海岸の埋立地や裸地の汀線上に生える。
- 分布  
ヨーロッパ原産の外来種。第2次世界大戦以降分布が広がっている

## 名前の由来

- ホコガタアカザ(矛形藜)  
矛(ほこ)のような形の葉を持つ藜(アカザ)であることから名づけられた。

## ● よく似た植物

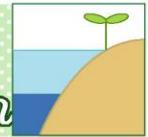
### ① ホソバハマアカザ

生える場所は、ホコガタアカザとよく似るが、葉がほこ形にならず細長い形状。葉が、茎の下部のものでも対生にはならない。

# アキノミチヤナギ

タデ科 1

*Polygonum polyneuron*



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

花期

結実期



①茎は枝を分岐させながら、伸び葉は互生する。②③茎の上部に葉と花をつけるものの、上部の葉は落ちやすいため、穂状に花がついているように見える。花は深紅色。④葉の付け根には膜質の托葉がある。托葉は短く鞘状で、上方は裂け、脈が目立つ。

## かたちの特徴

- 高さ: 30~80cm。
- 葉のつき方: 互生
- 葉の大きさ  
長さ0.5~3cm、幅5~10mm
- 葉の形  
長楕円形~倒披針形。柄はほとんどない。
- 花  
茎の上部の葉の付け根に花をつけるが、この部分の葉は落ちやすいため、穂状に花がついているように見える。

## 生える場所

- 環境  
海岸や沿海地の湿った草地に生える。
- 分布  
北海道~九州に分布。

## 名前の由来

- アキノミチヤナギ(秋の道柳)  
ミチヤナギに似ているが、秋に花が咲くことから名づけられた。ミチヤナギは、道端に生え、葉が柳の葉に似ていることから。

## ●よく似た植物

- ①ミチヤナギ: 道端や荒地に生える。開花期が早く春に開花する。草丈も10~40cmとアキノミチヤナギよりも低い。

# 塩沼地・汀線以外の海辺の植物 その1

クサスギカズラ（ユリ科）



ハマニンニク（イネ科）



コウボウムギ（カヤツリグサ科）



ツルナ（ツルナ科）



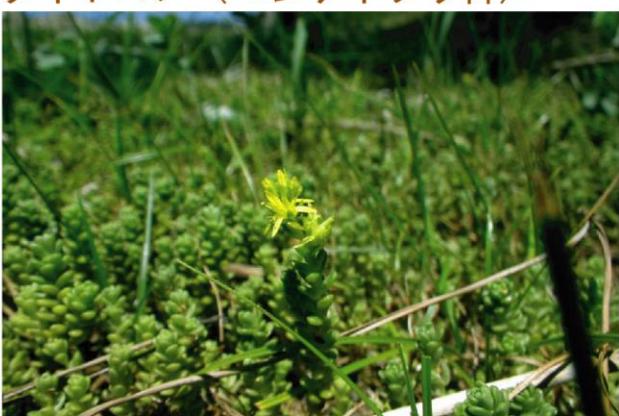
ハマナデシコ（ナデシコ科）



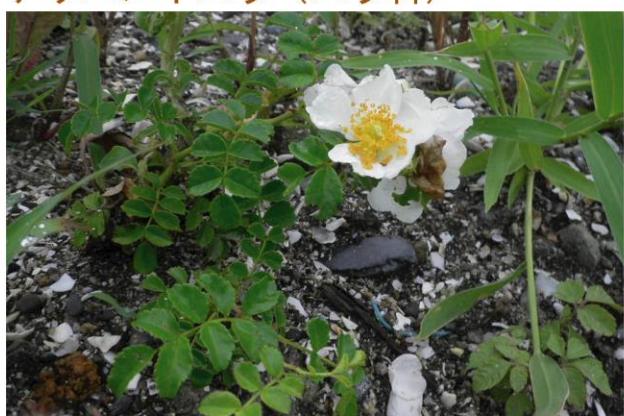
オカヒジキ（アカザ科）



タイトゴメ（ベンケイソウ科）



テリハノイバラ（バラ科）



# 塩沼地・汀線以外の海辺の植物 その2

ハマエンドウ（マメ科）



ハマボウフウ（セリ科）



ハマウド（セリ科）



ハマヒルガオ（ヒルガオ科）



ハマゴウ（クマツヅラ科）



カワラヨモギ（キク科）



ネコノシタ（キク科）



ハマニガナ（キク科）



## **参考図書** (より詳しい情報が必要な場合におすすめの図鑑)

- 『日本の野生植物』 (平凡社)
- 『絵合わせ 九州の花図鑑』 益村聖 (海鳥社)
- 『日本帰化植物写真図鑑』 (全農教)
- 『山渓ハンディ図鑑1 野に咲く花』 (山と渓谷社)

**表紙写真**・左上から：ハマボウ／今津干潟／ハママツナ

**裏面写真**・1段目：ヨシ (小穂)

- 2段目左より：ハマサジ／ホソバハマアカザ／シチメンソウ
- 3段目：アキノミチヤナギ
- 4段目左より：フクド／シオクグ
- 5段目：ウラギク
- 6段目左より：シバナ／祓川河口／今津干潟
- 7段目：ハマボウ

**扉写真**・1段目左から：ハマボウ／フクド／ウラギク

2段目左から：ハマサジ／ホコガタアカザ/アキノミチヤナギ

九州でみられる  
塩沼地植物ガイドブック

---

### **制作**

平成25年7月 発行

一般財団法人 九州環境管理協会

### **著者**

泉佑樹 笹富広一郎

〒813-0004 福岡県福岡市東区松香台1-10-1

電話：092-662-0410 FAX : 092-662-0411

### **※非売品**

本書の内容を使用、引用する場合には著者あてに連絡いただき許諾求めて下さい。



九州でみられる  
**塩沼地植物**  
ガイドブック